

# あなたはトスランス感染症

を知っていますか？

## どんな病気なの？

トリコフィトトスランス菌は南米やヨーロッパにおける頭部白癬の主な原因菌です。2000年ころから全国の柔道選手の頭部や身体にタムシ（白癬）発症がみられ、20年近くが経過する現在でも柔道選手や家族、友人などに感染が拡大しています。



トスランス菌は感染力が強く、一度感染すると非常に治りにくいので注意が必要です。

この菌にはゼニタムシ（体部白癬）とシラクモ（頭部白癬）の2種類あります。

① **体部白癬**……発疹は、柔道着等でする顔、首、上半身に単発あるいは複数認め、直径1～2cmの小さなものが多く、かさかさしたピンク色の斑です。

② **頭部白癬**……ふげやかさぶたが少しできる程度の症状の軽いものが多いのですが、ひどい場合は、頭皮が盛り上がり、膿みが出て、脱毛を生じます。



## まずは予防が大切！

柔道選手一人ひとりが実践しよう！

トスランス菌の感染経路は、身体接触によるものとされていますが、その他に、衣類やタオル、寝具類を共有することからの感染も考えられます。集団感染を阻止するには、自分の身体や練習場、部屋などをいつも清潔に保ちましょう。

1. 練習直後には、シャワーなどで出来るだけ早く頭や身体を石鹸で洗いましょう。他の白癬菌に比べても、トスランス菌の体内への侵入速度は速く、傷口からだ約2倍の速さで侵入します。（シャワー施設のない場合は、水道で頭を洗い、濡れたタオルなどで身体を清潔にしましょう。）

2. 練習着はよく洗濯しましょう。練習着には菌が付着してしまいます。



3. 練習前後には練習場をよく掃除しましょう。菌は抜け毛やアカのなかで半年間も生存して活動します。

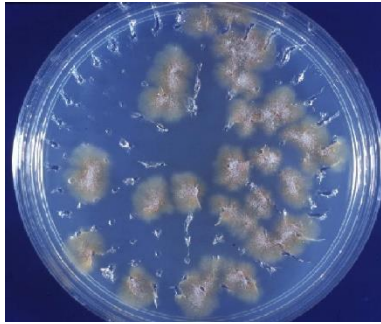
4. 部員同士で帽子やシャツ、タオルなどの貸し借り（共用）は、やめましょう。

5. 部員内、家族内に症状のある人がいたら、早めに治療するように勧めましょう。

6. 練習前後に友人同士でボディチェックをし、皮疹のある者は休ませましょう。

# 皮膚科医で必ず治療を受けてください！

トンスランス感染症は身体に発症したタムシ（白癬）が消えても、主に頭部の皮膚や毛根で保菌者（キャリア）になることが多いです。診断時には「柔道をやっているのでトンスランス感染症も知れない」と医師に相談して下さい。



培養されたトンスランス菌

- ・身体にタムシが発症した場合・・・  
塗り薬（外用薬）での治療となりますが、重症の場合は飲み薬（内服薬）で治療します。
- ・頭部にタムシが発症した場合・・・
- ・頭部検査で陽性を示した場合・・・  
飲み薬（内服薬）および塗り薬（外用薬）での治療となります。

**診断、治療については必ず  
医師の指示に従って下さい！**



## 感染したら大会に出られないのですか？

現在、全日本柔道連盟主催大会を始め、多くの大会の出場規定にトンスランス感染者の大会出場可否に関する事項が明記されており、日々の努力の成果を大会で発揮できなくなる可能性があります。感染症についての取扱いに関しては大会主催事務局などに問い合わせください。

## 柔道人としてのプライドを持とう！・・・ 柔道MIND

指導者の方々へ・・・

トンスランス感染症は、治療と予防をしっかりとやれば、怖い病気ではありません。しかし、指導者のなかには「試合が近いから暇がない・・・。」「うちのチームだけ治療しても仕方がない・・・。」などと通院や治療に消極的な姿勢の方がいます。また、皮膚科専門医を受診せず、市販の外用剤のみ使用してテーピングなどで覆って、合同練習や試合に参加させている指導者もいます。大会出場に関わる内容については各大会事務局に問い合わせる必要がありますが、感染している生徒を練習や合同稽古会などに参加させることは指導者としての資質を問われることになります。指導者の方々には、撲滅に向けた「前向きの姿勢」を切にお願いします。柔道の試合や練習による感染拡大は明らかであり、指導者や柔道選手は自らトンスランス感染症に立ち向かう責任があると思います（詳しくはYahoo検索：「トンスランス感染症研究会」のウェブサイトをご覧ください）。



発行：全日本柔道連盟医科学委員会  
監修：比留間政太郎（順天堂大学医学部特任教授）  
文責：廣瀬伸良（医科学特別委員/順天堂大学大学院教授）